



金属資源情報

平成 29 年 1 月 18 日 No.17-02

ニュース・フラッシュ

独立行政法人 石油天然ガス・金属鉱物資源機構 調査部

ニュース・フラッシュは、インターネットでも御覧になれます。記事検索も行えます。

<http://mric.jogmec.go.jp/>

[中南米]

- ペルー：OEFA 監査業務の新規則、2017 年前半に完成の見通し
- ペルー：鉱業石油エネルギー協会会長、2017 年国内銅生産量 260 万 t を見込む
- ペルー：2016 年の鉱業関係事故による死亡者は 29 人
- ペルー：Hochschild Mining 社、2017 年にグリーンフィールド探鉱に 4 百万 US\$
- ペルー：Tacna 州政府、Southern Copper 社と Minsur 社に水利用削減を要請
- ペルー：2016 年 11 月の鉱産物生産量
- ペルー：政府、インフォーマル鉱業合法化プロセスを改正
- ペルー：Buenaventura 社、El Brocal ユニットの拡張に言及
- ペルー：Tambomayo 金銀プロジェクト、生産開始
- ペルー：鉱業権者に対する最低生産量や罰金を定める鉱業法 40 条、41 条を改正
- ペルー：La Arena 金鉱山と Shahuindo 金鉱山、2016 年生産量
- ペルー：Eloro Resources 社、La Victoria 銅金銀プロジェクトのために資金調達
- ボリビア：China Natural Resources 社、銅製錬所を買収
- ボリビア：2016 年 1~11 月の鉱産物輸出額が前年同期比 5.0%増
- ボリビア：2016 年第 3 四半期の鉱業ロイヤルティ収入、前年同期比 1.5%減
- ボリビア：2015 年の鉱業投資額は 367.6 百万 US\$
- ボリビア：San Bartolomé 鉱山、2016 年の銀生産量はほぼ目標どおり
- エクアドル：Windfall Tax 法案可決
- エクアドル：鉱業会議所会頭が、Explorcobres 社の鉱山キャンプ襲撃事件にコメント
- エクアドル：Cornerstone Capital Resources 社、新たな Cascabel 銅・金プロジェクト探査計画公表
- エクアドル：Cornerstone Capital Resources 社、Bramaderos 金銅鉱区を取得
- コロンビア：政府、小規模鉱業事業者への融資のため銀行と協定締結
- コロンビア：Angostura 金銀プロジェクト、IFC が融資撤回
- コロンビア：2017 年 9 月以降、鉱業向け水銀輸入禁止
- コロンビア：San Matias 銅金プロジェクト Alacran 鉱床の初期鉱物資源量報告
- ニカラグア、ホンジュラス：加 Glen Eagle Resources 社、Cobra Oro 金生産プラント事業に集中するため、同社子会社 Sandgold SA 社を売却
- メキシコ：鉱山次官、Mario Cantú 氏が就任
- メキシコ：Zacatecas 州環境鉱業税承認に対するメキシコ鉱業会議所の反応
- メキシコ：2016 年第 3 四半期、銀高品位・鉱山ランキング
- メキシコ：2016 年メキシコ鉱業
- メキシコ：加 Santacruz Silver 社、San Felipe 多金属プロジェクトの売却プロセス協議は難航か
- メキシコ：2016 年鉱業部門投資額、前年比 1.6%増の 4,702 百万 US\$となる見込み
- メキシコ：Peñoles 社、複数のプラント拡張のため 1,546 百万ペソを投資
- メキシコ：メキシコ鉱業資産の売却手続きが進む
- メキシコ：Primero Mining 社、San Dimas 多金属鉱山

の高コスト構造が重圧となる

- メキシコ：2017年メキシコ注目プロジェクト
- メキシコ：2017年メキシコ鉱業に明るい兆し
- メキシコ：Grupo México 社株価、2017年も堅調に推移
- メキシコ：加Riverside Resources 社、「2017年メキシコ鉱業戦略」を発表
- メキシコ：加Torex Gold 社、El Limon-Guaje 金鉱山で高品位金鉱化帯を捕捉
- メキシコ：2016年第3四半期の銅生産量、Buenavista 鉱山拡張により Southern Copper 社が2/3以上を占める
- メキシコ：加Millrock Resources 社、加Centerra Gold 社、Sonora 州金共同探鉱協定を締結
- メキシコ：ガソリン価格値上げ抗議活動により、Dolores 金・銀鉱山操業一時停止
- メキシコ：加Alamos Gold 社、Mulatos 鉱山、同鉱山 La Yaqui 鉱床の開発に投資を集中
- メキシコ：2016年鉱業ロイヤルティを活用したプロジェクトを承認
- メキシコ：Torex Gold 社保有のEl Limón-Guajes 鉱山、生産コスト増も生産は好調
- メキシコ：Chihuahua 州鉱業協会、ガソリン価格の値上げに端を発した道路封鎖による負債額200百万ペソ以上
- ドミニカ共和国：金鉱山の現況
- ドミニカ共和国：加GoldQuest Mining 社、新たに Hoyitos 鉱区の鉱業権を取得
- ドミニカ共和国：加GoldQuest Mining 社、Tireo 鉱区南部において新たな鉱脈発見

[北米]

- 加：Gold Corp 社、Auryn 社に35.02mC\$の出資
- 加：First Mining 社、Goldlund 金プロジェクトの鉱

量計算結果を発表

- 加：Osisko 社、Barrick Gold 社と Kan 金プロジェクトに関する共同探鉱契約を締結

[アフリカ]

- DR コンゴ：Glencore、DR コンゴ Mutanda 銅・コバルト鉱山の権益拡大を検討

[オセアニア]

- 豪：Atlas Iron 社、WA 州 Corunna Downs 鉄鉱石鉱床は有望とのDFS結果を発表
- 豪：Pilbara Minerals 社、WA 州政府がPilgangoora リチウム鉱床の探掘権を認可
- 豪：プライベート・エクイティ・ファンドが中国系のMMG 社から Golden Grove 銅・亜鉛鉱山を買収
- 豪：Vale と FMG 社の鉄鉱石ブレンド等の提携は実現しない見通し
- 豪：鉄鉱石、石炭等の価格上昇で貿易・サービス収支は約3年ぶりに黒字

[アジア]

- インドネシア：Luhut 海事調整相が日本に対し製錬所建設を要請
- インドネシア：エネルギー・鉱物資源省、ニッケル鉱石及びボーキサイト輸出禁止の方針は堅持予定
- 中国：豫光金鉛、重金属汚染対策に760万円の政府補助金を獲得
- 中国：2017年鉛亜鉛精鉱及び亜鉛製品の輸出入税率、変化せず
- 中国：2016年酸化亜鉛業界における生産伸び率は2~3%
- 中国：中国五鉱集団、大規模レアアース企業集団設立の審査通過
- 中国：2016年亜鉛精鉱輸入は大幅に減少

ペルー：OEFA 監査業務の新規則、2017年前半に完成の見通し

2016年12月26日付け地元紙によると、Elsa Galarza 環境大臣は、環境評価監査局(OEFA)が環境モニタリング規則の改善作業に取り組んでおり、新たな規則は2017年上半期に完成することを明らかにした。同大臣は、新規則がより明確なガイドラインと手順を示し、より正確な環境評価プロセスが期待できるようになるだろうと述べた。

(2017年1月6日 リマ 迫田昌敏)

ペルー：鉱業石油エネルギー協会会長、2017年国内銅生産量260万tを見込む

2016年12月28日付け地元紙によると、ペルー鉱業石油エネルギー協会(SNMPE)のCarlos Gálvez会長が、同紙のインタビューに答えるかたちで、同国内銅生産量は、2016年通年で250万tに達した後、2017年に260万tになる見込みであると述べた。鉛・亜鉛・銀の各生産量も、今後の伸びは鈍化するものの、年に5~10%の伸びが見込めるが、金の生産量はYanacocha鉱山の減産を補う新規大型プロジェクトが無く、伸びが無い、あるいは減産傾向になるだろうと述べた。

一方、鉱業開発投資額については、現在進行中の大型プロジェクトはなく、中規模及び鉱山拡張プロジェクトに限られており、開発投資額は、2016年の4,000~5,000百万US\$から、2017年には2,000百万US\$まで落ち込むと予測した。投資の回復には、まず、社会争議の解決が先決で、開発開始にあたっての環境影響評価の再チェックや利益の10%を還元する社会協約を要求するコミュニティの例が参考になると述べ、社会争議の予防のために国が環境影響評価やその事前相談に関与すべきだと提案した。次に必要なのは、行政手続きの簡素化で、鉱山開発に至るための手続きが、過去の政権時代に少なくとも7つも追加され、探査が終了し鉱量が確定されたのち、開発までに必要な手続きは240以上を数え、4~6年の時間を要するとコメントした。

さらに、清算手続き中のLa Oroya精錬所については、付近に人が住んでいない海岸エリアへの移設を提案し、空気の薄い高地よりガスや温度制御への投資コスト面で有利だと述べた。

(2017年1月6日 リマ 迫田昌敏)

ペルー：2016年の鉱業関係事故による死亡者は29人

2016年12月28日、ペルーエネルギー鉱山省は、同国内における鉱業関係事故による死亡者数が、2015年と同じ29人であったことを報告した。同省によれば、この数字は少なくとも2000年以降の最少レベルで、73人を記録した2002年のピークから、2012年の53人、2013年の47人、2014年の32人と減少傾向が続いていた。報告によれば、死亡者のうち6人は、許可されていない作業方法によりガスを吸引したHuancavelica州のインフォーマル事業者だった。

(2017年1月6日 リマ 迫田昌敏)

ペルー：Hochschild Mining社、2017年にグリーンフィールド探鉱に4百万US\$

2016年12月30日付け地元紙によると、Hochschild Mining社(本社ロンドン、リマベース)は、2017年にグリーンフィールド探鉱に4百万US\$を投資する見通しである。同社探鉱担当副社長Isac Burstein氏が、同紙のインタビューに答える形で語ったところによると、これまで金属価格低迷のために中止していた探査活動を、2017年は再活性化させるという。同氏は、計画されている探査が2つのプロジェクトであることは明らかにしたが、その名前は明かさなかった。

(2017年1月6日 リマ 迫田昌敏)

ペルー：Tacna州政府、Southern Copper社とMinsur社に水利用削減を要請

2016年12月30日付け地元紙によると、Tacna州政府は、水資源局(ANA)及びSouthern Copper社(Toquepala銅鉱山)、Minsur社(Pucamarca金鉱山)に対し、同州における水不足に対応するための緊急水利用計画書の提出を要請した。Jimenez同州知事は、同州における水利用の優先度は、住民生活、農業、商業、産業、鉱業の順番となっているとし、水不足が深刻化する中、水利用計画の見直しを行う必要があるとの考えを示した。同知事によれば、近年同州では人口の急増により水

の需要が高まっており、既に同州政府として、干ばつへの対応策を実施していると説明し、さらに、2017年から2018年にかけて、Manule川からの引水事業を実施する計画であることや、資源採掘企業による海水淡水化利用に係る法案を準備する必要があるとの考えを示した。

一方、同知事は、Southern Copper社と共同で、2016年に、同州Candarave郡への水供給を目的としたVizcachas地下水開発事業を開始し、7200/秒の井戸水を、同州政府と同社が折半利用する計画となっていることを明らかにした。

また、Minsur社は、同州Viñani地区における新たな地下水開発事業に資金援助を行っていることを明らかにしたほか、Pucamarca鉱山における水利用量は非常に少なく、同州政府の利水に影響は与えていないと述べた。

(2017年1月6日 リマ 迫田昌敏)

ペルー：2016年11月の鉱産物生産量

2016年12月30日、エネルギー鉱山省が2016年11月の鉱産物生産量を公表した。銅生産量は依然として前年同月を大きく上回り、2016年1～11月の銅生産量は、前年同期比42%増の215万t余となった。同省Marcos Villegas鉱山総局長は、銅輸出は、2016年の総輸出額の27%超を占める最大の輸出品であると述べた。2016年1～11月の銅生産量の州別生産量は、123%増産したArequipa州(476千t)がトップで、Ancash州(417千t)、Cusco州(339千t)、Las Bambas鉱山がスタートしたApurímac州(300千t)と続く。また、鉱山別では、Cerro Verde鉱山が474,763tでトップ、Antamina鉱山407,098t、Las Bambas鉱山300,410t、Antapaccay鉱山202,817t、Cuajone鉱山160,070t、Toromocho鉱山144,810t、Constancia鉱山136,114tと続く。

11月の金生産量は、Hochschild Mining社とTahoe Resources社の増産により、前年同期比7.4%増となった。11月の亜鉛生産量も、Antamina鉱山の増産により9.7%アップした。11月の鉄鉱石は、毎年のようにストライキのある唯一の生産者Shougang Hierro Perú社が通常の操業に戻り67%増。

鉱種	単位	11月			1～11月		
		2015	2016	増減 2016/2015	2015	2016	増減 2016/2015
銅	(t)	158,645	210,718	32.82%	1,514,367	2,154,425	42.27%
金	(g)	12,346,591	13,256,363	7.37%	134,469,293	140,471,475	4.46%
亜鉛	(t)	115,755	126,924	9.65%	1,304,440	1,216,872	-6.71%
銀	(kg)	362,256	357,207	-1.39%	3,695,280	4,008,824	8.48%
鉛	(t)	28,339	25,744	-9.15%	285,187	287,710	0.88%
鉄	(t)	418,793	697,108	66.46%	6,843,225	7,079,860	3.46%
錫	(t)	1,591	1,556	-2.23%	17,670	17,110	-3.17%
モリブデン	(t)	1,981	2,008	1.38%	18,286	23,508	28.56%
タングステン	(t)	6	0	-99.95%	126	0	-99.97%

(2017年1月6日 リマ 迫田昌敏)

ペルー：政府、インフォーマル鉱業合法化プロセスを改正

2016年12月31日付け地元紙によると、ペルー政府は、小規模・零細鉱業合法化を国益に資する事業と位置付けることや、2012年の法令第1105号に定められる合法化プロセスの再編を目的とした法令第1293号を公布した。

新たなこの法令では、州政府エネルギー鉱山局の管轄による包括的な合法化プロセス導入や、エ

エネルギー鉱山省内における合法化包括登録システム、合法化に係る行政メカニズムの簡素化などが定められている。なお、本合法化包括登録システムには、これまでに最高政令 029-2014-EM 等に基づき合法化登録を行った事業者は既に含まれている。

一方、現在まで合法化登録を行っていない小規模・零細鉱業事業者に関しては、単一の鉱区で活動し、納税者番号（RUC）を有する事業者は、2017年2月6日から、土日祝祭日を除く120日の期間内に合法化登録を行うことが定められている。さらに、法令第1150号や第1293号に定められる合法化プロセスや登録を行わずに活動を続ける事業者に対しては罰則が適用されること、合法化プロセスそのものの期限は、登録受付期限の終了後から36か月までとすることが定められている。エネルギー鉱山省によると、2016年10月までの4年間に合法化された労働者は、7万人とみられているインフォーマル業者全体のうち4千人とされる。

（2017年1月6日 リマ 迫田昌敏）

ペルー：Buenaventura社、El Brocal ユニットの拡張に言及

2017年1月5日付け地元紙によると、Buenaventura社（本社リマ）新CEOのVictor Gobitz氏は、同社子会社のEl Brocal社の拡張に言及した。

El Brocal社（銅・亜鉛・鉛を生産）は、最近473百万US\$の投資額で設備更新を完了したばかり。同紙によると同氏は、El Brocal社のColquijirca 鉱山（Pasco州）で、同州のMarcapunta Oeste 銅プロジェクトやSan Gregorio 亜鉛プロジェクトの鉱石処理をするなど、同社の選鉱プロセスには、金属回収率、選鉱処理量、操業安定性、選鉱能力の拡大などにおいて、改善余地があると述べた。また、San Gregorio 亜鉛プロジェクトについて、おそらく世界最大の未開発の亜鉛プロジェクトであるとも述べた。同氏は、2017年下半期に、本件に関する事業計画をまとめる予定である。

El Brocal社は、2016年第3四半期に16.2百万US\$の損失を計上したが、亜鉛・鉛・銀価格の回復により、売上は前年同期の31.7百万US\$から51.7百万US\$に回復した。また、2015年の生産実績は、亜鉛53,319t、鉛18,854t、銀3.7百万oz（約115t）、銅32,061tだった。

亜鉛のペルートップ生産者であるMilpo社社長だったVictor Gobitz氏はこの年始、旧CEOのRoque Benavides氏に代わり、Buenaventura社CEOに就任した。同氏は、2005～2008年まで、El Brocal社に勤務した経験を持つ。

（2017年1月6日 リマ 迫田昌敏）

ペルー：Tambomayo 金銀プロジェクト、生産開始

2017年1月5日付け地元紙によると、Buenaventura社（本社リマ）は、2016年12月30日にTambomayo金銀プロジェクト（Arequipa州）における金ドーレ生産を開始したことを明らかにした。

商業生産開始は2017年3～4月になるだろうと見込まれている。同金銀プロジェクトは、同社にとって（Yanacocha 鉱山を含め）5つ目の鉱山であり、投資額は340百万US\$（トータルCAPEXは362百万US\$）、鉱山及びプラント建設期間は36ヶ月、プラント処理能力1,500tpd、年間金140,000～160,000oz（約4.4～5.0t）、銀3.3～3.8百万oz（約103～118t）を生産する見通しとなっている。

鉱石埋蔵量は2.6百万t、金量700,000oz（約22t）、銀金属量22.9百万oz（約712t）のほか、探鉱によって操業を5年間延長できるだけの鉱物資源量が存在しているという。

（2017年1月6日 リマ 迫田昌敏）

ペルー：鉱業権者に対する最低生産量や罰金を定める鉱業法 40 条、41 条を改正

2017 年 1 月 5 日、ペルー政府は、鉱業投資の継続を目的とした政令第 1320 号を公布し、鉱業一般法第 40 条及び第 41 条を改正した。

本政令では、改正理由について、2019 年 1 月より最低生産量不履行に対する罰金を現行の 20 倍以上に引き上げるとする同法第 40 条及び第 41 条は、現在の市況下において鉱業権者が対応することの困難な規定であり、操業や探鉱投資の継続を危うくするものであると説明している。本政令により、鉱業権取得の翌年から起算して 11 年～15 年目までに年間最低生産量（1ha 当たり 4,050 ソーレス（約 1.2 千 US\$）相当）が達成できない場合、これまで 10%と規定されていた罰金額は 2%に削減された。同じく、16～20 年目までの最低生産量不履行の罰金は 5%、21～30 年目までの罰金は 10%とすることが定められている。なお、これまでは 15 年目終了時で年間最低生産量が履行できない場合は鉱業権の失効が規定されていたが、新たな政令では本不履行による鉱業権失効は 30 年目終了時に延長された。さらに、年間に罰金の 10 倍以上の投資を行った場合には、罰金の支払いが免除される旨が規定されている。政府授権法下で公布された本政令は 2019 年 1 月より施行される。また、本政令に基づく規則が 180 暦日以内に準備される。

今回の措置について Buenaventura 社 CEO の Gobitz 氏は、鉱業投資は長期的なものであり、鉱業権付与の時点で開発が決定しているわけではないこと、様々な交渉や調査、許認可取得等に数十年を要することもあることを理解した上での前向きな改正であると評価した。一方、Alturas Minerals 社 CEO の Cardozo 氏は、今回の改正はペルーにおいて投資を行う鉱山企業に対する圧力を下げるものだとし一定の評価をしつつ、鉱山企業はたとえ 11 年目に最低生産量が履行できないとしても、それまでに様々な調査、許認可取得、住民交渉等に投資しており、罰金の適用開始時期をより遅くするべきだと主張した。

（2017 年 1 月 6 日 リマ 迫田昌敏）

ペルー：La Arena 金鉱山と Shahuindo 金鉱山、2016 年生産量

2017 年 1 月 5 日、Tahoe Resources 社（本社カナダ）が 2016 年通期の決算報告を公表し、その中で、ペルー国内で操業する La Arena 鉱山（La Libertad 州）と Shahuindo 鉱山（Cajamarca 州）の金生産量を明らかにした。同社プレスリリースによると、La Arena 鉱山の 2016 年のドーレ中金生産量は 204,362oz（約 6.36t）で、前年の 230,436oz（約 7.17t）から 11.3%減産した。

また、2016 年 5 月に商業生産を開始した Shahuindo 鉱山のドーレ中金生産量は 48,462oz（約 1.51t）だった。2016 年 4 月に同社が発表したところによれば、2016 年の金生産量について、La Arena 鉱山では 180,000oz（約 5.6t）、Shahuindo 鉱山では 65,000oz（約 2.0t）を目標としていた。また、同プレスリリースでは、Shahuindo 鉱山の粗鉱処理能力を 36 千 tpd に拡張するプロジェクトは 2018 年中ごろに完成予定であること、La Arena 鉱山周辺に対し、FS を目指し、長期的・大規模な探鉱活動を促進させる計画であることも併せて明らかにされた。

（2017 年 1 月 6 日 リマ 迫田昌敏）

ペルー：Eloro Resources 社、La Victoria 銅金銀プロジェクトのために資金調達

2017 年 1 月 6 日、Eloro Resources 社（本社トロント）は、La Victoria 銅金銀プロジェクト（Ancash 州）のために、私募債による 325 千 C\$の資金調達を実施したことを明らかにした。

同社は、同プロジェクトにおいて、2017 年第 1 四半期に、まず San Markito-Victoria 地区で、

続いて Rufina Oeste 地区で、合わせて 3,000m のボーリング調査を実施する計画である。同社は 2016 年 12 月 14 日のプレスリリースで、鉱区北部の San Markito-Victoria 地区でのマッピングとサンプリング結果を報告した。

そのなかで、Victoria ゾーンにおいて、幅 0.50m で Au 2.40g/t、Ag 86.1g/t や幅 3.50m で Au 0.81g/t、Ag 229g/t などの分析結果を得たほか、金アノマリーが San Markito エリア東部まで 1.0 km 以上連続し、チャンネルサンプリングでは、幅 4.00m で Ag 994g/t の分析結果を得ていることや、San Markito の銀アノマリーは 1.5 km 連続していることを明らかにした。

(2017 年 1 月 6 日 リマ 迫田昌敏)

ボリビア：China Natural Resources 社、銅製錬所を買収

2016 年 12 月 26 日付け地元紙によると、China Natural Resources 社（本社中国深圳）は、12 月 23 日、ボリビアで、設計能力年産 3,000t の銅製錬所を所有する Planta Metalurgica Antay Pacha SA 社を買収したことを明らかにした。

同製錬所はすでにライセンス手続きを完了し、操業許可も得られているという。買収価格は、1.4 百万 US\$ の負債を含む 1.5 百万 US\$。同製錬所の試運転は 2017 年第 2 四半期に、また、商業生産は 2017 年第 4 四半期に予定されている。

(2017 年 1 月 6 日 リマ 迫田昌敏)

ボリビア：2016 年 1～11 月の鉱産物輸出額が前年同期比 5.0% 増

2016 年 12 月 28 日、ボリビア国家統計局（Instituto Nacional de Estadística de Bolivia）は、2016 年 1～11 月の輸出額を公表し、その中で鉱産物輸出額が前年同期の 1,608 百万 US\$ から 5.0% 増の 1,689 百万 US\$ になったことを明らかにした。鉱種別内訳は次のとおり。

- ・亜鉛は前年同期の 800 百万 US\$ から 7.9% 増の 863 百万 US\$。
- ・銀は前年同期の 527 百万 US\$ から 7.7% 増の 567 百万 US\$。
- ・鉛は前年同期の 123 百万 US\$ から 17% 増の 144 百万 US\$。
- ・ホウ酸塩は前年同期の 34.1 百万 US\$ から 2.7% 減の 33.2 百万 US\$。
- ・銅は前年同期の 44.6 百万 US\$ から 41% 減の 26.2 百万 US\$。
- ・金は前年同期の 20.7 百万 US\$ から 21% 増の 25.1 百万 US\$。
- ・タングステン（タングステン）は前年同期の 20.9 百万 US\$ から 36% 減の 13.3 百万 US\$。
- ・錫は前年同期の 14.0 百万 US\$ から 47% 減の 7.4 百万 US\$。
- ・バリウム硫酸塩は前年同期の 14.7 百万 US\$ から 77% 減の 3.4 百万 US\$。
- ・アンチモンは前年同期の 5.2 百万 US\$ から 53% 減の 2.5 百万 US\$。

前年同期の全輸出額 8,259 百万 US\$ に比べ、2016 年 1～11 月の全輸出額は、19.5% 減の 6,652 百万 US\$ となり、鉱産物輸出額の全輸出額に占める割合は前年同期の 19.5% から 25.4% に上昇した。

一方、鉱産物とは別のカテゴリで発表された金属製品輸出額の内訳は以下のとおり。金製品は前年同期の 658 百万 US\$ から 4.4% 増の 686 百万 US\$。錫製品は前年同期の 238 百万 US\$ から 14% 増の 271 百万 US\$。銀製品は前年同期の 90 百万 US\$ から 9.1% 増の 98 百万 US\$。金宝飾品は前年同期の 74 百万 US\$ から 26% 増の 94 百万 US\$。アンチモン製品は前年同期の 22.3 百万 US\$ から 42% 減の 13.0 百万 US\$。銅カソードは前年同期の 9.1 百万 US\$ から 9.0% 減の 8.2 百万 US\$。

鉱産物と金属製品（再輸出を除く）を合計した 2016 年 1～11 月の輸出額は 2,859 百万 US\$ とな

り、前年同期の 2,699 百万 US\$から 5.9%増加した。また、全輸出額に占める割合は 32.7%から 43.0%にアップした。

(2017 年 1 月 6 日 リマ 迫田昌敏)

ボリビア：2016 年第 3 四半期の鉱業ロイヤルティ収入、前年同期比 1.5%減

2016 年 12 月 30 日付け地元紙は、ボリビア鉱業冶金省のレポートを引用するかたちで、2016 年第 3 四半期の同国の鉱業ロイヤルティ収入が、前年同期の 97.3 百万 US\$から 1.5%減の 95.9 百万 US\$になったと報じた。

最大の収入源である Potosí 県でも、前年同期の 62.4 百万 US\$から 1.9%減の 61.2 百万 US\$ (全体の 64%) になった。一方、La Paz 県は、金価格の上昇により、前年同期の 13.6 百万 US\$から 26%増の 17.1 百万 US\$となった。その他の県は以下のとおり。

Oruro 県は前年同期の 11.9 百万 US\$から 30%減の 8.3 百万 US\$。

Beni 県は前年同期の 3.1 百万 US\$から 40%増の 4.3 百万 US\$。

Santa Cruz 県は前年同期の 4.7 百万 US\$から 38%減の 2.9 百万 US\$。

Cochabamba 県は前年同期の 1.4 百万 US\$から 14%減の 1.2 百万 US\$など。

Potosí 県と Oruro 県のロイヤルティ減収の原因について、同レポートでは、2016 年 1~9 月の亜鉛生産量が、前年同期の 323 千 t から 363 千 t に増加したにもかかわらず、2016 年第 3 四半期の亜鉛の平均国際価格が、前年同期の 0.94US\$/1b から、0.87US\$/1b に下落したためだとしている。同レポートは、鉱種別のロイヤルティ収入について、第 1 位に 33.4%の銀、続いて 30%の亜鉛、19%の金、7.5%の錫、6.1%の鉛としている。

ロイヤルティ収入は、国 85%と地方自治体 15%に分配され、特に Oruro 県、Potosí 県、La Paz 県では重要な収入源となっている。ロイヤルティは、主に民間事業者から徴収されており、全体の 77.6%を占め、そのほか協同組合 15.0%、国 7.4%が支払っている。

(2017 年 1 月 6 日 リマ 迫田昌敏)

ボリビア：2015 年の鉱業投資額は 367.6 百万 US\$

2017 年 1 月 5 日付け地元紙によると、ボリビアにおける 2015 年の鉱業投資額は 367.6 百万 US\$ (公共部門 187.6 百万 US\$+民間部門 180.0 百万 US\$) だった。

同紙は、“Dossier de Minería y Metalurgia 1980-2015” からの引用として、2006~2015 年の鉱業投資額の年平均として、327.9 百万 US\$ (公共部門 88.6 百万 US\$+民間部門 239.3 百万 US\$)、また、同期間での最高額は 519.6 百万 US\$を記録した 2008 年だったことを公表した。同年は、San Cristóbal プロジェクトの巨額投資があった。

2006~2014 年における各年の公共+民間鉱業投資額は次のとおり：2006 年は (公共 6 百万 US\$+民間 340 百万 US\$)、2007 年は (公共 46.7 百万 US\$+民間 268.3 百万 US\$)、2008 年は (公共 41.8 百万 US\$+民間 477.8 百万 US\$)、2009 年は (公共 112.3 百万 US\$+民間 91.6 百万 US\$)、2010 年は (公共 73.0 百万 US\$+民間 219.7 百万 US\$)、2011 年は (公共 60.3 百万 US\$+民間 238.4 百万 US\$)、2012 年は (公共 110.6 百万 US\$+民間 218.9 百万 US\$)、2013 年は (公共 141.5 百万 US\$+民間 151.0 百万 US\$)、2014 年は (公共 106.5 百万 US\$+民間 207.2 百万 US\$)。2015 年半ばに作成された「鉱業冶金セクター開発計画 2015-2019 (Plan Sectorial de Desarrollo Minero Metalúrgico 2015-2019)」では 104 鉱業プロジェクトに 5 年間で 5,613 百万 US\$の投資 (既存鉱山

の鉱量拡大に約 2,501 百万 US\$、新規プロジェクトへ約 1,114 百万 US\$、生産性の改善に 353 百万 US\$など) が推定されている。

(2017 年 1 月 6 日 リマ 迫田昌敏)

ボリビア : San Bartolomé 鉱山、2016 年の銀生産量はほぼ目標どおり

2017 年 1 月 5 日、Coeur Mining 社 (本社米国シカゴ) は、2016 年第 4 四半期および 2016 年通期の決算報告を発表し、その報告のなかで、ボリビアの San Bartolomé 鉱山 (Potosí 県) について、2016 年の粗鉱処理量 1,666,787t (前年 1,713,079t)、平均粗鉱銀品位約 115g/t (前年約 117g/t)、平均銀回収率 88.8% (前年 84.6%)、銀生産量 5,469 千 oz (約 170t、前年 5,436 千 oz)、2016 年第 4 四半期の粗鉱処理量 368,131t (前年同期 475,695t)、平均粗鉱銀品位約 123g/t (前年同期約 119g/t)、平均銀回収率 86.3% (前年同期 84.9%)、銀生産量 1,259 千 oz (約 39t、前年同期 1,550 千 oz) であったことを明らかにした。

2016 年第 4 四半期の粗鉱処理量の急減は、ボリビア高地における干ばつの影響を受けたもの。2016 年の銀生産量は、同社の目標であった 5.5~5.8 百万 oz (約 171~180t) の下限をほぼ達成した。同社は、同鉱山の 2017 年の銀生産目標を、5.4~5.9 百万 oz (約 168~183t) に置いている。

(2017 年 1 月 6 日 リマ 迫田昌敏)

エクアドル : Windfall Tax 法案可決

2016 年 12 月 23 日~2017 年 1 月 2 日付け地元紙によると、エクアドル国会で審議されていた「Ley de Plusvalía」法案 (通称 Windfall Tax 法案) が、12 月 27 日、最終審議が行われ、採決の結果、政府原案どおり可決された。12 月 30 日、Rafael Correa 大統領は同法案を批准・署名し、同日の官報に掲載され発効した。

同法案の対象範囲は主として民間不動産取引で、超過利益に対し 75%の課税がなされることになるが、鉱山企業に対しては、プロジェクトにおいて、プロジェクト開始から生産開始までと、生産開始後、累積投資を回収してから 4 年後まで Windfall Tax は適用されないこととなり、また、超過分に対する税率は、これまでどおり 70%で、変更はされなかった。鉱業分野への投資に対するインセンティブが意識されたものと考えられる。

(2017 年 1 月 6 日 リマ 迫田昌敏)

エクアドル : 鉱業会議所会頭が、Explorcobres 社の鉱山キャンプ襲撃事件にコメント

2016 年 12 月 24 日付け地元紙によると、エクアドル鉱業会議所会頭の Rodrigo Izurieta 氏が、12 月 15 日に発生した Explorcobres 社の鉱山キャンプ襲撃事件 (既報) について、以下のとおりコメントした。

襲撃された同社の La Esperanza 鉱山キャンプの土地は、元々私有地で、先祖代々憲法で保障されている保護地ではなく、十数年前、同社が正規に購入したが、その土地に、先住民族の Shuar 族ではない、「Nankits」と呼ぶ武装グループが不法に潜入し、所有権を主張した。政府及び同社は長年にわたり同グループを説得し、土地の引き渡しを要求してきたが、説得に応ぜず、緊張が高まり、同グループがキャンプを武力で襲う事件に発展した。Shuar 族は所有地売却に応じ、また、地元還元策を期待するなど、鉱業開発に原則賛成していたが、この事件発生により問題が拗れることが心配される。同グループは、この土地を先祖代々の土地であり憲法に定められた権利であると主張し

ているが、十年にわたる長い審査で、権利はないことが明らかになっている。

また、2016年12月31日付け地元紙によると、同襲撃事件において、環境NGO「Acción Ecológica」が暴力を行使したとして、政府が同団体の解散命令を発したことに對して、国連の関係組織が政府に對し、解散命令取消の要求を行ったと報じられている。

(2017年1月6日 リマ 迫田昌敏)

エクアドル：Cornerstone Capital Resources 社、新たな Cascabel 銅・金プロジェクト探査計画公表

2017年1月4日、Cornerstone Capital Resources 社（本社オタワ）が、Cascabel 銅・金プロジェクト（Imbabura 県）の探査について、新たな計画を明らかにした。同社プレスリリースによると、これまで実施されたボーリング調査 CSD-16-019 孔において、掘削深度 325.6m から同 1,161.5m までの約 835m の銅鉱徴（真幅はおよそ 560m）には、斑銅鉱とモリブデナイトが存在し、地表部での鉱徴と合わせ、Hematite Hill 鉱徴、Alpala Southeast 鉱徴、Cristal 鉱徴の 3 鉱徴地が優先順位の高いターゲットとして抽出された。2017 年第 1 四半期におけるボーリング調査計画は、Alpala 鉱床の広がり、特に南東方向への広がりの把握を目的に、Hematite Hill 鉱徴と Alpala Southeast 鉱徴で実施することになっている。

同プロジェクトは、85% 権益を保有する SolGold 社（本社豪州ブリスベーン）が探査費全額を負担してオペレーターとなり、15% の権益を保有する Cornerstone Capital Resources 社が FS を担当する。

(2017年1月6日 リマ 迫田昌敏)

エクアドル：Cornerstone Capital Resources 社、Bramaderos 金銅鉱区を取得

2017年1月5日、Cornerstone Capital Resources 社（本社オタワ）は、同社のエクアドル現地子会社 La Plata Minerales SA 社が、国の公開入札を通じ、Bramaderos 金銅プロジェクト鉱区（旧 Curiplaya プロジェクト、Loja 県）を取得したと発表した。

同鉱区は、面積 4,949ha で、Loja 州都から約 130 km、鉱区西部を PanAmerican Highway が通過しアクセス至便。これまで、1970～1984 年、2001～2002 年、2004～2007 年の間に断続的に探査され、北東方向に並ぶ石英閃緑斑岩とポタシク変質帯に網状石英脈とブレッチャ組織が認められる典型的なポーフリー鉱化作用を示しているという。土壌地化学探査で確認された鉱区中央の 5 km×1～2 km の強い金・銅（・モリブデン）のアノマリーに對し、17 本のトレンチ調査、31 ラインの磁気・IP 探査、延べ 10,426m のボーリング調査等が実施されたものの、いまだに全体像は解明されていない模様。

同社 CEO の Brooke Macdonald 氏は、大規模な金と銅の鉱床胚胎が期待できる優れたポテンシャルを秘めており、JV プロジェクトとしても期待していると述べている。同鉱区の旧保有者は AndeanGold 社（旧 Ecuagold Resources 社）で、2015 年に放棄した。

(2017年1月6日 リマ 迫田昌敏)

コロンビア：政府、小規模鉱業事業者への融資のため銀行と協定締結

2016年11月28日付け地元紙によると、鉱山エネルギー省は、小規模鉱業事業者に低金利融資の信用枠を供与するため、コロンビア農業銀行（Banco Agrario de Colombia）と協定を締結した。この措置により、小規模鉱業事業者は、通常の銀行貸出固定金利より 3%（ポイント）低い金利で 5 年間の融資が受けられる。貸付限度額は 5 億ペソ（約 166 千 US\$）。なお、貸付対象は、これまでロイ

ヤルティの支払が滞っていない小規模企業で、適用期間は2016年12月末までとなっている。

(2017年1月6日 リマ 迫田昌敏)

コロンビア：Angostura 金銀プロジェクト、IFCが融資撤回

2016年12月21日付け地元紙によると、世界銀行グループのIFC（国際金融公社）は、Angostura 金銀プロジェクト（Santander 県）に関し、同プロジェクトを100%保有するEco Oro Minerals 社（本社バンクーバー）に対する融資を撤回した。

同公社によると、最近の調査により、同プロジェクトが地域社会や環境にネガティブなインパクトを与えることが明らかになったとし、融資撤回に踏み切った。これに対し、米州環境防衛協会（Asociación Interamericana para la Defensa del Ambiente、AIDA）は、この決定に満足の意を表した。1990年代半ば以降2015年まで採鉱作業に250百万US\$を投じたという同社は、本件の解決策をめぐるコロンビア政府と交渉中である。

2016年2月、同プロジェクトを含むエリアは、コロンビア憲法裁判所により、Santurbán の Paramo エリアとして、生態系保護のための鉱業活動禁止の決定を受けた。2016年3月、同社は、これをカナダとコロンビア間の自由貿易協定違反として、コロンビア政府に仲裁の申し立てを行った。2016年8月、国家鉱業庁（ANM）は、採鉱段階の鉱業権の延長申請に関連して、Paramo エリアに入る同鉱区の50.73%の延長を認めなかった。2016年12月8日、同社は、コロンビア政府を相手取り、世界銀行投資紛争解決国際センター（ICSID）に仲裁申請を提出した。

同プロジェクトは、NI43-101 ベース、カットオフ品位金 2.5g/t での精測及び概測鉱物資源量として金 2.21 百万 oz（約 69t、品位 4.57g/t）、予測鉱物資源量として金 1.03 百万 oz（約 32t、品位 4.70g/t）を持ち、これまで1,068孔362,520mのボーリングと3km以上の坑道探鉱が実施されているものの、深部方向に探鉱余地が残されているという。同社は、年産金量平均 269 千 oz（約 8.4t）で、10年間のマインライフを想定していた。

(2017年1月6日 リマ 迫田昌敏)

コロンビア：2017年9月以降、鉱業向け水銀輸入禁止

2016年12月27日付け地元紙によると、商務産業観光省がこのたび公布した2016年省令第2133号により、2017年9月16日以降、鉱業向け水銀輸入が禁止される。また鉱業用途以外の産業及び生産活動用途向けの水銀輸入も年間2tに制限されつつ、2020年9月16日以降は禁止される。

同省令は、2013年の法律第1658号第5条の「具体的に水銀の輸入、販売に付き、規制すべく諸々の規約を設けるべき」旨の条項に従い発令されたものである。同省令によれば、今後、水銀の輸入販売業者は、同省に輸入販売業者登録し、一本化した唯一の輸入申請窓口（VUCE、Ventanilla Única de Comercio Exterior）にて、水銀の用途に応じて、事前に薬品食品監理局（INVIMA、Instituto Nacional de Vigilancia de Medicamentos y Alimentos、米国のFDAに相当）あてに申請後、同省の輸入許可を得る義務がある。

また同省は、2017年9月までの水銀輸入量を63tと決め、そのうち40tは2017年6月15日まで輸入可能で、6月16日以降同年9月15日までは残りの23tを輸入できるとしている。同年9月16日以降は、鉱業用としての水銀の輸入は全面禁止、鉱業以外の用途向けには、同年9月16日から2020年9月15日まで、年間輸入枠として2tの水銀輸入が許可される。今後同省は、環境省、公共衛生省及び国税庁（DIAN）と連携し、水銀の輸入販売監視と規制を行うことになっている。

税関機能を持つ国税庁 (DIAN) は、今後 45 日以内に、水銀を輸入する特定の港を決定する。ちなみに、商務産業観光省の数字によると、最近のコロンビアの水銀輸入量は、2010 年 113.3t、2011 年 84t、2012 年 101.3t、2013 年 99.9t、2014 年 127.1t、2015 年 133.2t で、2016 年は 9 月までに 95.1t を記録している。

(2017 年 1 月 6 日 リマ 迫田昌敏)

コロンビア : San Matias 銅金プロジェクト Alacran 鉱床の初期鉱物資源量報告

2017 年 1 月 5 日、Cordoba Minerals 社 (本社トロント) とその JV パートナーである High Power Exploration 社 (本社バンクーバー) が、San Matias 銅金プロジェクト Alacran 鉱床 (Córdoba 県) の初期的な鉱物資源量を報告した。

同社プレスリリースによると、ピット限定の予測鉱物資源量はカットオフ銅品位 0.3% で 53.52 百万 t、平均銅品位 0.70%、平均金品位 0.37g/t、この中には、カットオフ銅品位 1%、予測鉱物資源量 7.37 百万 t、平均銅品位 2.14%、平均金品位 0.41g/t の鉱体が含まれる。この鉱床は南北方向のトレンドを持ち、長さ約 1.3 km、幅が最大 355m、胚胎深度は 220m 以浅という。同社は、平面的に東西、および深度方向に鉱化作用が連続する可能性に言及している。同鉱床は 2015 年 10 月、Cordoba Minerals 社が、Sociedad Ordinaria de Minas Omni 社から、45,280 百万コロンビアペソ (約 16 百万 US\$) で 100% 権益を買収した。

(2017 年 1 月 6 日 リマ 迫田昌敏)

ニカラグア、ホンジュラス : 加 Glen Eagle Resources 社、Cobra Oro 金生産プラント事業に集中するため、同社子会社 Sandgold SA 社を売却

2017 年 1 月 3 日付け業界紙によると、加 Glen Eagle Resources 社は、同社子会社の Sandgold SA 社を 100 千 C\$ で売却することを発表した。

契約では、Glen Eagle Resources 社は、ニカラグアの Libertad 金プロジェクトが開発に移行した際には 3% の Net Smelter Return (NSR) を得ることができる。この売却によって、同社は、ホンジュラスで進めている Cobra Oro 金生産プラント事業に集中することとなる。

(2017 年 1 月 5 日 メキシコ 森元英樹)

メキシコ : 鉱山次官、Mario Cantú 氏が就任

2016 年 12 月 21 日、Enrique Peña Nieto メキシコ合衆国大統領は、12 月 19 日付けで発表した経済省・鉱山次官のポストに Mario Cantú 氏を指名した。同氏は、2013 年から鉱業総調整官 (経済省において鉱業行政の実質トップとなる職) を努めており、大蔵公債省、社会開発省の顧問、水利用、酪農産業、PEMEX での職務経験を有している。

(2016 年 12 月 26 日 メキシコ 森元英樹)

メキシコ : Zacatecas 州環境鉱業税承認に対するメキシコ鉱業会議所の反応

2012 年 12 月 21 日付け地元紙等によると、本年 12 月 15 日第 62 回 Zacatecas 州議会は、鉱山企業は、鉱業プロジェクト開始後は持続可能な開発と同時に社会的・環境責任を有することとなり、プロジェクト管理には最善の注意をする必要があるとした上で、環境税と位置付ける新たな税の枠組みを承認したと報じている。

本件について、メキシコ鉱業会議所（CAMIMEX）は、以下の概要の声明を発表した。

- ・新税制の創設は、連邦制及び法の原則に反する。鉱業はコンセッション化した活動として、連邦による税制と環境義務において、連邦の管轄権下にある。
- ・主要鉱業企業は、連邦環境保護検察庁（Profepa）の下、環境保護、水利用及び鉱業廃棄物管理に関連した環境関連法、施行規則、規格を遵守し、社会的責任を果たしている。
- ・一般税（法人税）に加えて鉱業は、2年前に設立した鉱業特別税、貴金属鉱業特別税を支払っている。うち850百万ペソ以上はZacatecas州に割り当てられた（2014年414百万ペソ及び2015年444百万ペソ）。同様に、固定資産税を支払い、同州の最大の収入源となっている。
- ・Zacatecas州の新たな税負担は、投資を停滞させ、州民の生産性を失う。今後、連邦の下、財政調整を受ける可能性がある。また、既存事業の実行可能性を脅かす結果となり、生産構造が失われ、労働者の収入に影響を与える。中長期の広い視野での検討が必要である。
- ・Zacatecas州の経済的、社会的成長を推進するためのDialogo（対話）開催を同州知事へ呼びかけている。

（2016年12月26日 メキシコ 森元英樹）

メキシコ：2016年第3四半期、銀高品位・鉱山ランキング

2016年12月25日付け業界紙は、2016年第3四半期において最も高い銀品位粗鉱を処理した鉱山ランキングを発表している。概要は以下のとおり。

- ・La Platosa 鉱山（加 Excellon Resources 社、Durango 州）：今期は、メキシコで最高の銀品位を達成したものの、前年同期の547g/tから大きく低下した。銀生産は小規模であるが、他に鉛及び亜鉛を多量に産出する鉱山である。今後は、探鉱により更なる鉱体発見の可能性があり、また、鉱山用水問題を解決し、銀生産全維持コスト9US\$/oz未満を達成する可能もある。
- ・La Colorada 鉱山（加 Pan American Silver 社、Zacatecas 州）：374g/t、前年同期の品位370g/tからやや改善、他に金、鉛及び亜鉛を産出する。2017年には拡張計画（164百万US\$）が予定されており、同計画の一部である新規硫化物プラントの粗鉱処理を本年7月に開始した。拡張計画の成就により大幅なコストダウンが期待される。
- ・Topia 鉱山（加 Great Panther Silver 社、Durango 州）：322g/t、品位300g/tを超えた小鉱山であり、今期の銀生産量3.9tの他に金、鉛及び亜鉛を産出する。今期の品位は、浮遊選鉱プラント等の一時的停止により前年同期359g/tから低下したものである。
- ・Saucito 鉱山（Fresnillo 社、Zacatecas 州）：289g/t、メキシコにおける主要銀産出鉱山の1つ。2015年に開発工事を終了したSaucito2鉱山が操業したことにより今期152.4tの銀を生産した。他に金、鉛及び亜鉛を産出する。
- ・San Gonzalo 鉱山（加 Avino Silver & Gold Mines 社、Durango 州）：272g/t、今期6.4tの銀を生産した小規模鉱山で他に金を産出する。前年同期の品位は、鉱物処理に貯鉱を混ぜたため232g/tに低下していた。
- ・La Guitarra 鉱山（加 First Majestic Silver 社、México 州）：252g/t、前年同期の232g/tからの上昇によりランク入りした。今期の生産量は銀8.2t及び金61.5kgで、唯一のDurango州・Zacatecas州外の鉱山である。

（2016年12月26日 メキシコ 森元英樹）

メキシコ：2016年メキシコ鉱業

2016年12月末、地元紙等は2016年のメキシコ鉱業は、新たにメキシコ鉱業に参画した企業（プレーヤー）がある反面、撤退したプレーヤーもある浮き沈みの年であったと報じており、概要は以下のとおり。

- ・新しいプレーヤーの中で最もインパクトのあった事案としては、加 Torex Gold（本社：トロント）が保有する El Limón-Guajes（Guerrero 州）鉱山が商業生産を開始したことであり、同鉱山は2017年の金生産目標を 383,000oz（約 11.9t）にまで拡大するとしている。同社はメキシコ第5位の金生産企業となり、また、El Limón-Guajes 鉱山はメキシコにおいて生産コストの低い鉱山に位置付けられている。
- ・米 Hecla Mining 社は、2015年末に San Sebastián 銀・金鉱山において、約10年振りにメキシコでの鉱業活動を再開させた。同鉱山の2016年の銀生産量見込みは 4.35 百万 oz（約 135t）と大型鉱山ではないものの、2016年第3四半期の銀生産コストは 4.03US\$/oz（副産物である金生産コストを差し引いた金額）と生産コストが非常に低い鉱山に位置付けられている。なお、同社は鉱山寿命の延長を発表している。
- ・Premier Gold Mines 社は、2016年10月に加 Yamana Gold 社から Mercedes 金・銀鉱山（Sonora 州）を買収しメキシコ鉱業に参画した。同鉱山の金品位は非常に高く、最新の調査結果で算出した資源量は 403,000oz（約 12.5t）にまで上昇している。
- ・撤退するプレーヤーとしては、前述の Mercedes 鉱山を売却した Yamana Gold 社の他、加 New Gold（本社：バンクーバー）は Cerro San Pedro（San Luis Potosí 州）鉱山の操業を2016年第2四半期に終了させ、既存鉱石による処理プロセスのみを実施することを発表、Nyrstar 社は Campo Morado 亜鉛鉱山（Guerrero 州）の売却を検討中、さらに、加 Aurcana（本社：バンクーバー）は、2016年1月の債務整理の一環として La Negra 銀鉱山の操業を停止し、メキシコ鉱業からの撤退することを発表している。
- ・2017年以降に本格的な生産プロセスに入るプロジェクトとしては、Fresnillo 社が2016年第2四半期に投資額 515 百万 US\$ を発表した Chihuahua 州と Durango 州の州境に位置する San Julián 金・銀プロジェクトがあり、本プロジェクトは、2017年に商業生産の第2フェーズに入る。また、小規模鉱山ではあるが、Avino Silver & Gold Mines 社は、Avino 銀・金鉱山の生産を開始し、加 Santacruz Silver 社（本社：バンクーバー）は、2016年10月に Veta Grande 銀鉱山の商業生産を開始している。
- ・加 Goldcorp 社が保有するメキシコで最も大きな鉱山に位置付けられる Peñasquito 金・銀鉱山の生産量が減少している。しかし、2017年には品位の回復、Los Filos 鉱脈の生産開始が予定されていることから生産量は回復すると考えられる。
- ・Fresnillo 社が保有する Herradura 金鉱山、Saucito 多金属鉱山、San Julián 金鉱山の生産量増も見込まれている。また、Industrias Peñoles 社が保有する Rey de Plata 亜鉛プロジェクトは2018年の生産開始、Frisco 社の Tayahua 銅プロジェクト（Zacatecas 州）は2017年の商業生産を見込んでいる。

（2017年1月3日 メキシコ 森元英樹）

メキシコ：加 Santacruz Silver 社、San Felipe 多金属プロジェクトの売却プロセス協議は難航か

2016年12月26日付け業界紙等によると、加 Santacruz Silver 社（本社：バンクーバー）は、

同社が Sonora 州に保有する San Felipe 多金属プロジェクトの売却プロセス協議の終了を発表した。同社は、2016 年 12 月に同鉱山を Sonora 州 Hermosillo 市の企業（社名未公表）に 15 百万 US\$、プラス IVA（付加価値税：Value Added Tax）で売却することを発表していた。

他方、Santacruz Silver 社の関係者は、両社協議において支払いの大枠については合意に至っているものの、具体的な条件については引き続き議論することとなり、本件の支払いは何ら行われていないと述べている。同社は、San Felipe プロジェクトの作業中止を 2014 年に発表しており、更に、同プロジェクトに係る減損損失 16.7 百万 US\$を計上していた。なお、2014 年のプレ経済性評価では、銀価格を 19.91US\$/oz と仮定した IRR（内部収益率）は 37.7%と推計されている。

（2017 年 1 月 3 日 メキシコ 森元英樹）

メキシコ：2016 年鉱業部門投資額、前年比 1.6%増の 4,702 百万 US\$となる見込み

2016 年 12 月 28 日付け業界紙等によると、2015 年の鉱業部門投資額は、2014 年比 6.4%減となったものの 2016 年は、2015 年比 1.6%増の 4,702 百万 US\$となる見込みであると報じている。本推定値は、2016 年 9 月までの経済省のデータから推計したものである。最大の増加は、2015 年比 114%増の 22.5 百万 US\$を記録した再生可能エネルギー分野への投資である。一方、投資額が減少する主な分野は、環境、探鉱及びプロジェクト拡張があり、それぞれ前年比 34%減、14%減及び 11%減となる見込みである。

メキシコ鉱業会議所（Camimex）幹部は、鉱業は国の経済発展の礎となるものであり、2017 年は、研究、技術開発、トレーニング向け投資に焦点を当てる必要があるとコメントしている。

（2017 年 1 月 3 日 メキシコ 森元英樹）

メキシコ：Peñoles 社、複数のプラント拡張のため 1,546 百万ペソを投資

2016 年 12 月 28 日付け地元紙等によると、Peñoles 社の子会社 Met-Mex Peñoles 社は、2016 年に複数のプラントの拡張と近代化のため総額 1,546 百万ペソを投資したと報じた。

2016 年 1~9 月の同社によって行なわれた投資により約 50,458 百万ペソの総売上高を記録した。また、関係子会社を通じ、米国、スイス、アラブ首長国連邦、英国、日本、中国、ドイツ、ベネズエラ及びブラジル等向け輸出を進めたところ、2016 年 1~9 月期の輸出額は、同期比約 15%増を記録した。なお、同社は、Met-Mex 社部門において 2,374 人の労働者の雇用している。

（2017 年 1 月 3 日 メキシコ 森元英樹）

メキシコ：メキシコ鉱業資産の売却手続きが進む

2016 年 12 月 28 日付け業界紙等は、メキシコの幾つかの鉱山、鉱業プロジェクトが、バランスシートの改善、負債削減のため、売却されると報じている。

・Cerro del Gallo 金・銀プロジェクト

加 Primero Mining 社は、Guanajuato 州に保有する同プロジェクトをバランスシートの改善のため売却する予定である。同プロジェクトは、165 百万 US\$を投資することにより金 2.1t 及び銀 31.1t の生産量が見込まれる。2016 年 11 月、同社は、同社が保有する資産を処分し現金化することで資本の増加を図るための執行諮問委員会を設置する旨発表している。

・San Felipe 多金属プロジェクト

加 Santacruz Silver Mining 社は、同プロジェクトをメキシコ企業（社名未公表）に売却するこ

とを公表し、その運用を両社間で協議しているものの未だ合意に至っていない。2014年の同プロジェクトのプレ経済性評価では、銀価格を19.91US\$/ozと仮定したIRR（内部収益率）は37.7%と推計されていた。

・ **Los Filos 金鉱山**

2016年12月、加Goldcorp社は、Guerrero州に保有する同鉱山の売却は進捗しているとコメントしている。他方、Zacatecas州に位置するCamino Rojo多金属プロジェクトについては不確定要素が残っている。

・ **Campo Morado 鉱山**

Nyrstar社は、同社の事業を金属処理に集約するため全ての鉱業資産の売却を進めている。メキシコでは、2017年中にGuerrero州に位置するG-9多金属鉱山を含めた売却取引の終了を見込んでいる。同鉱山は、安全性と金属市況下落を背景に2015年からメンテナンス作業下にある。なお、同社は、チリ、ホンジュラス及びペルーの鉱山の売却を発表している。

・ **Mercedes 鉱山**

2016年10月、加Yamana Gold社はSonora州に位置するMercedes金・銀鉱山をPrimer Gold Mines社へ122.5百万US\$、発行済自社株6百万株の譲渡、及びNSRロイヤルティ1%の支払い等により売却したと発表している。

(2017年1月3日 メキシコ 森元英樹)

メキシコ：Primer Mining社、San Dimas多金属鉱山の高コスト構造が重圧となる

2016年12月27日付け業界紙等によると、Primer Mining社は、ニューヨーク証券取引所に上場している同社株価が上場要件を下回ったため、San Dimas多金属鉱山の高コスト構造改革に取り組むと発表した。

同社の株価は、2016年第3四半期、同鉱山向労働組合との交渉の結果、10百万US\$のボーナス等の支払いをすることとなり、資産流動性に懸念があるとして、2016年11月から上場要件を下回っている。2016年5月が期限の50百万US\$の回転信用枠の返済を行ったものの、同社が保有する施設の更新費用、債務返済金等の費用を勘案すると資金がショートする可能性が高い。

また、同鉱山は、高品位鉱床開発が遅れていること、労働費増による高コスト化（2016年第3四半期の全維持コストは、対前年同期の454US\$/ozの2倍以上となる1,080US\$/ozにまで上昇している）が進んでいる。

(2017年1月3日 メキシコ 森元英樹)

メキシコ：2017年メキシコ注目プロジェクト

2017年1月3日付け地元業界紙等は、金属市況の先行きが不透明な中、2017年、メキシコには注目すべきプロジェクトがあるとして、各プロジェクトの紹介を行っている。概要は以下のとおり。

- ・ **Camino Rojo 金プロジェクト**：加Goldcorp社が保有する同プロジェクトは、プレFS調査を終了し開発への移行が期待される鉱山であるが、同社はZacatecas州の権益の売却を示唆しており、今後の動向には注意が必要である。
- ・ **El Pilar 銅プロジェクト**：3,500百万US\$が投じられたBuena Vista銅プロジェクト拡張事業は工事が終了し、2018年に商業生産が開始される見込みである。生産開始初年度の銅カソード生産量は35,000t/年と予測されている。その後、Southern Copper社は、189百万US\$を投じてSonora

州に位置する La Caridad 鉱山の拡張事業である El Pilar 銅プロジェクトを進める予定である。

- ・ **Media Luna 金・銀プロジェクト** : Torex Gold 社が 800 百万 US\$ を投じて開発した El Limón-Guajes 金鉱山 (Guerrero 州) は 2016 年に商業生産が開始した。現在、同鉱山に隣接する Media Luna プロジェクトの開発時期に注目が集まっており、同社による開発作業は、2017 年に開始される可能性がある。
- ・ **El Barqueño 金プロジェクト** : Agnico Eagle Mines 社が Jalisco 州に保有する同プロジェクトは、2016 年に 16 百万 US\$ を投じ掘削作業が行われた。現在、資源量評価が行われており、近々、同作業は終了する見込みである。
- ・ **Juanucipio 多金属プロジェクト** : 投資額 305 百万 US\$ が見込まれる Fresnillo (56%)、MAG Silver (44%) が保有する同プロジェクト (Zacatecas 州) は、2018 年の生産開始が計画されており、本年は開発に向けた重要な年となる。2012 年のプレ経済性評価では、高品位鉱床と副産物により生産コストの更なる低減が可能であると評価されている。
- ・ **Plomosas 多金属プロジェクト** : 銀市況の上昇を受けて 2016 年第 2 四半期に First Majestic Silver 社が開発・探鉱予算を拡充した同プロジェクト (Sinaloa 州) は、銀探鉱を中心に作業を進めており、プレ経済性評価が 2017 年末に終了する見込みである。
- ・ **San Agustin 金・銀プロジェクト** : Argonaut Gold 社は、同プロジェクト (Durango 州) の土地使用変更許可の承認を得ており事業は計画どおり進んでいる。2017 年第 1 四半期から採掘作業が開始され、金市況 1,200US\$/oz と仮定した事前評価では IRR は 50% と推定されている。同社は更に、San Antonio プロジェクト (Baja California Sur 州) の開発に向け同プロジェクトの環境影響評価書を提出している。
- ・ **Ans Paula 金プロジェクト** : Timmins Gold 社が保有する同プロジェクト (Guerrero 州) は、2017 年第 3 四半期に FS 調査を終了し、2018 年早々の開発工事着工に向けた手続きを進めている。
- ・ **La Preciosa 銀プロジェクト** : Coeur Mining 社は、その他の資産を圧縮し、本年は Durango 州に保有する同プロジェクトに集中することを発表している。
- ・ **Terronera 金・銀プロジェクト** : 65 百万 US\$ の投資が見込まれている Endeavour Silver 社が保有する同プロジェクト (Jalisco 州) は、現在、掘削作業が進められており、2017 年初頭にはプレ FS 調査の詳細が公表される。また、同社が Zacatecas 州に保有する El Compás プロジェクトは、2017 年の生産が開始される見込みであり、これにより、Terronera プロジェクトの資金繰りが安定すると予想されている。

(2017 年 1 月 5 日 メキシコ 森元英樹)

メキシコ : 2017 年メキシコ鉱業に明るい兆し

2016 年 12 月 30 日付け業界紙等は、メキシコの 2016 年の鉱業生産量は減少するものの、2017 年には幾つかのプロジェクトの立ち上げが予定されていることから生産量は増加に転じると予想している。

2016 年 10 月のメキシコ国家統計地理情報局 (INEGI) の統計によると、メキシコ鉱業生産量は、対前年同月比 6.1% 低下した。金属別では、亜鉛 22.6% 減、金 7.1% 減、銅 1.3% 減、銀 1.1% 減、鉛 7.6% 増となった。結果、2016 年 1~10 月の生産量は、亜鉛 15.7% 減、鉛 15.6% 減、金 11.3% 減、銀 4.7% 減、銅 2.9% 増となっている。

2017 年の鉱業生産量予測としては、未だ公表されないプロジェクトがあるものの明るい兆しが見られる。Goldcorp 社が保有する Peñasquito 鉱山は、2017 年第 1 四半期は引き続き生産量が低調であるものの高品位鉱床開発により生産量は増加に転じる。Torex Gold 社が保有する El Limón-

Guaajes 鉱山は金生産量が 383,000oz まで上昇する。Fresnillo 社の San Julián 銀・金鉱山は 2017 年第 2 四半期に第 2 フェーズに移行する。Alamos Gold 社が保有する Mulatos 金鉱山は El Yaqui 鉱床からの生産が開始され金生産量が上昇する。また、Southern Copper 社の Buenavista 鉱山の拡張工事も期待できる事業である。

(2017 年 1 月 5 日 メキシコ 森元英樹)

メキシコ : Grupo México 社株価、2017 年も堅調に推移

2016 年 12 月 29 日付け業界紙等は、Grupo México 社の株価は 2017 年も強含みに推移するとするアナリストコメントを掲載している。概要は以下のとおり。

- ・2016 年、Peñoles 社、Grupo México 社、Minera Frisco 社及び Autrán 社といった鉱山企業の株価は、大きく上昇した。しかしながら、株価は変動するものであり、2017 年は、これらの企業の幾つかの株価は下落する可能性がある。
- ・Peñoles 社、Minera Frisco 社の株価が上昇した背景には、投資家によるリスク分散の動きがあった。金、銀を生産する鉱山企業の利益増を見据えたものであり、経済動向が不確実性を増す中、厳しい状況に陥る可能性を有する。米国 FRB の預金準備率引き上げ、インフラ政策を含めた Trump 新米国大統領の政策、中国経済が推定ラインで成長するとの予測は、貴金属需要に影響を与える可能性があり、両社の株価の不安定要素となる。
- ・大手総合情報サービス会社の予想の中には、様々な経済見通しがあり、この 1 年で Peñoles 社の株価は 30% 上昇するが、Minera Frisco 社の株価は 30% 下がると予想するものもある。さらに、金融大手企業のレポートには、US\$ がより強固なものとなり、貴金属市況は金が 9%、銀が 13% 下落する可能性があり、この影響を鉱山企業が受けると予測するものもある。
- ・銅のようなベースメタルを生産する鉱業企業は、2017 年の株価上昇要素を持ち合わせている。米国のインフラの拡張計画、中国の経済動向は、銅価格にプラス要素となる。このため、Autlán 社のような鉱山企業には追い風となる。金融大手企業のレポートによると、銅市況価格は Grupo México 社の株式にプラスの影響を与えるし、世界経済情勢が好転すると更にベースメタルへの期待は高くなる。

(2017 年 1 月 8 日 メキシコ 森元英樹)

メキシコ : 加 Riverside Resources 社、「2017 年メキシコ鉱業戦略」を発表

2017 年 1 月 4 日付け業界紙によると、加 Riverside Resources 社（本社：バンクーバー）は、「2017 年メキシコ鉱業戦略」において、探鉱、鉱区買収及び新規 JV からなる成長計画を発表した。概要は以下のとおり。

- ・現在進行中の Sonora 州に位置する Glor 金プロジェクトの探鉱結果を 1~2 月の可能な限り早い段階で取得する。また、2017 年中に同プロジェクトの探査掘削計画を進める。
- ・Riverside Resources 社が 1 百万株を保有する加 Silver Viper Minerals 社に対し、Riverside Resources 社はオプション契約の下、Sonora 州に位置する Clemente プロジェクトへ探鉱費 35 万 C\$ を投資する。
- ・自社プロジェクト開発のため新たなパートナーを模索する。2017 年は Peñoles 社、大手カナダ企業との JV 契約を模索する。2017 年中の新たな鉱区買収を目指す。

(2017 年 1 月 8 日 メキシコ 森元英樹)

メキシコ：加 Torex Gold 社、El Limon-Guaje 金鉱山で高品位金鉱化帯を捕捉

2017年1月5日付け業界紙によると、加 Torex Gold Resources 社（本社：トロント）は、同社が Guerrero 州に保有する El Limon-Guaje 金鉱山の Limon Sill 地区下部において高品位の金鉱化帯を捕捉したと発表した。Limon Sill 地区は、El Limon 鉱体と El Limon 南鉱体との間に位置し、2011年における4孔のボーリング探査により高品位金鉱化作用の発達した新たなスカルン型の鉱床があることを確認した経緯がある。

同地区下部における第1フェーズのボーリング探査計画結果によると、同計画は2016年9～12月間に延長350m・幅150mの範囲で34孔、総延長7,727mのボーリング探査を実施し、それらのうち23孔で肯定的な結果を捕捉した。以下に代表的な例を示す。

	Au(g/t)	Ag(g/t)	幅(m)	深長(m)	鉱化作用タイプ
SST-01孔	317.8	51	3.4	141.72～145.08	スカルン型
SST-19孔	230.7	7.2	2.4	263.55～266.00	スカルン型
SST-25孔	19.6	4.1	9.6	98.00～107.60	スカルン型
SST-27孔	22.6	37.1	13.3	81.59～94.88	スカルン型
SST-34孔	83.3	18.1	4.3	54.68～58.95	スカルン型

(2017年1月8日 メキシコ 森元英樹)

メキシコ：2016年第3四半期の銅生産量、Buenavista 鉱山拡張により Southern Copper 社が2/3以上を占める

2016年12月29日付け業界紙等によると、2016年第3四半期のメキシコの銅生産量の2/3以上は3,500百万US\$を投資した Buenavista 鉱山拡張分を含む Southern Copper 社が生産したものである。同社は、ペルーの Tia Maria プロジェクトに1,400百万US\$を投じる計画を有しているが、将来の成長目標を達成するため以下に示すメキシコへの投資も継続する。

- ・Pilares 銅プロジェクト（Sonora 州）：2015年に100百万US\$で買収。同プロジェクトは、La Caridad 鉱山の拡張と位置付けられ、粗鉱は同鉱山の浮遊選鉱プラントで処理する。2016年9月の同社報告書によると、同プロジェクトの初期投資額は189百万US\$を予定している。近隣コミュニティとの対話交渉を継続しており、2017年の開発開始が見込まれている。
- ・El Pilar 銅プロジェクト（Sonora 州）：既に全ての開発許可を取得しており、同社の取締役会の承認を得た。2018年から鉱山寿命13年での開発が見込まれている。現時点では、同プロジェクトと45km離れた Buenavista 鉱山との相乗効果を生み出すための評価作業が進められている。
- ・El Arco 銅・金プロジェクト（Baja California 州）：平均品位 Cu 0.416%及び Au 0.14g/t、埋蔵量1,500百万tを有する。2016年第3四半期の同社報告書によると、現在も探鉱作業と用地買収交渉が継続中である。同社の取締役会未承認開発案件ではあるが、投資額3,000百万US\$、年間生産量は銅190千t、金3.3tが見込まれている。
- ・その他、Angangueo 多金属プロジェクト（Michoacan 州）は環境影響評価報告書の認可待ち、Los Chalchiuities 多金属プロジェクト（Zacatecas 州）は探鉱中である。

(2017年1月8日 メキシコ 森元英樹)

メキシコ：加 Millrock Resources 社、加 Centerra Gold 社、Sonora 州金共同探鉱協定を締結

2016年1月5日付け業界紙等によると、加 Millrock Resources 社（本社：バンクーバー）は、加 Centerra Gold 社（本社：トロント）と Sonora 州における金をターゲットとした共同探鉱協定を締結した。

2017年、Centerra Gold社は探鉱費として少なくとも250千US\$を投資することとなり、同投資の下、Millrock Resources社は、同資金を活用しSonora州の探査及び潜在性評価を行う。探査費用は2百万US\$を上限とし、権益比率はCenterra Gold社：Millrock Resources社、80:20となる見込みである。

(2017年1月8日 メキシコ 森元英樹)

メキシコ：ガソリン価格値上げ抗議活動により、Dolores 金・銀鉱山操業一時停止

2017年1月7日付け地元紙によると、加Panamerican Silver社がChihuahua州に保有するDolores金・銀鉱山(2009年2月操業開始、投資額230百万US\$)を管理するMinera Dolores社は、同鉱山労働者用の食料、資機材が届かないことから鉱山操業を一時停止した。

4日間の幹線道路の閉鎖、及びPEMEXの石油供給停止が同社に与える損失額は120百万ペソに上り、また、幹線道路封鎖により鉱山労働者が帰宅できない事態が発生している。メキシコ石油小売り機構(ONEXPO)は、主要幹線道(La Junta、Rosario、Tomochi)を閉鎖するGasolinazo(2017年1月1日のガソリン価格引き上げ)抗議活動は現在も続いており、また、パイプライン輸送も停止していると発表している。

(2017年1月12日 メキシコ 森元英樹)

メキシコ：加Alamos Gold社、Mulatos 鉱山、同鉱山La Yaqui 鉱床の開発に投資を集中

2017年1月6日付け業界紙等は、加Alamos Gold社(本社：トロント)がメキシコMulatos 鉱山(Sonora州)の探鉱、同鉱山La Yaqui 鉱床の開発に投資を集中させると報じている。

2017年のMulatos 鉱山向け探鉱費は17百万US\$(2016年同20百万US\$)、La Yaqui 鉱床の探鉱費は6百万US\$を予定しており、同鉱床の開発は第2四半期になる見込みである。2016年9月の同社資料によるとLa Yaqui 鉱床の資源量は金447,000oz(約14t)と推計されている。

また、同社は、同鉱山に隣接するPuerto del Aire 鉱床の延長と考えられるEl Refugio 鉱床の探鉱費に5百万US\$、Los Bajios 鉱床の探鉱費に2百万US\$、Cerro Pelón 鉱床の探鉱費に4百万US\$を計上している。

(2017年1月12日 メキシコ 森元英樹)

メキシコ：2016年鉱業ロイヤルティを活用したプロジェクトを承認

2017年1月9日付け業界紙等は、2016年鉱業ロイヤルティによる資金を活用した鉱業地域向け公共プロジェクト800件が承認されたことを報じている。

都市領土農地開発省(SEDATU)は、18鉱業州の地域開発委員会が総額1,786百万ペソ(約84百万US\$)、818のインフラ、公共工事プロジェクトを承認したと発表した。2014年1月に施行された鉱業特別税、貴金属鉱業特別税による税収額2,079百万ペソであり、今回承認されたプロジェクトのほとんどが、道路舗装、レクリエーションやスポーツ関連、街路照明の設置といった事業向けであり、州別では、Sonora州、Zacatecas州、Chihuahua州、Durango州向けである。

(2017年1月12日 メキシコ 森元英樹)

メキシコ：Torex Gold社保有のEl Limón-Guajes 鉱山、生産コスト増も生産は好調

2017年1月9日付け業界紙等によると、2016年3月に生産を開始したTorex Gold社が保有するEl Limón-Guajes(Guerrero州)鉱山の2016年金生産量は279,937oz(販売量275,613oz)となり、

当初計画 275,000oz (約 8.6t) を上回る結果となった。

同鉱山の 2017 年販売量は 350,000~380,000oz (約 10.9~11.8t) と見込まれている。なお、産金コストは、総合キャッシュコスト (Total Cash Costs) が 525~575US\$/oz、全維持コスト (AISC) が 775~825US\$/oz となった。

2016 年第 3 四半期の AISC が 699US\$/oz から上昇した理由は、銅の除去を行う試薬使用料等が増加したためであり、同社は 2018 年には SART プラントが完成するため同コストを 100US\$低下させる可能性がある。

(2017 年 1 月 12 日 メキシコ 森元英樹)

メキシコ : Chihuahua 州鉱業協会、ガソリン価格の値上げに端を発した道路封鎖による負債額 200 百万ペソ以上

2016 年 1 月 10 日付け地元紙によると、鉱山会社、鉱山関連企業が加盟する Chihuahua 州鉱業協会 (CLUMIN) は、ガソリン価格の値上げに端を発した道路封鎖による負債額は 200 百万ペソを上回ることを明らかにした。

同協会は、燃料コストの上昇は、あらゆる経済活動に影響を与える。その中でも、鉱業分野は、利益性が低い経済活動であり、また、公共工事予算の配分が少ない地域の開発を促進する事業である。今回の活動は、人里離れた社会の人々の経済活動に影響を与えることは言うまでもないと述べている。

(2017 年 1 月 12 日 メキシコ 森元英樹)

ドミニカ共和国 : 金鉱山の現況

2016 年 12 月 22 日付け業界紙は、ドミニカ共和国の金鉱山の概要を報じている。

- Romero 鉱山は、同国で最も先進的なプロジェクトであり、また、高い経済性を有している。2016 年プレ FS 調査では、金・銅の粗鉱生産量 2,800t/日、年間生産量 (金量換算) 109,000oz (約 3.4t) を見込んでいる。また、各市況、金 1,300US\$/oz、銀 20US\$/oz、銅 2.50US\$/lb と仮定した場合の Post-tax IRR は 28.2%、初期投資額は 159 百万 US\$ と推定している。GoldQuest 社は、各許認可手続を進めつつ、Romero Sur 構造の開発調査を進めている。なお、同鉱山 50 km には Tireo プロジェクトがあり、2016 年には穿孔試験が行われている。
- NEITA プロジェクトは、Santo Domingo 北西 200 km に位置し、面積 22,600ha の Unigold 社保有のプロジェクトである。同プロジェクトでは、無数の鉱化帯が確認されており、特に 2015 年の調査において 5.27g/t の品位が捕捉されている Candelones 構造に注目が集まっている。
- Juan de Herrera プロジェクトは、Romero 鉱山と Tireo プロジェクト近隣に位置し、Precipitate Gold 社が保有する面積 12,700ha のプロジェクトである。現在、同社は、地質調査及びボーリング調査を進めている。
- Everton Resources 社は、Pueblo Viejo 鉱山境界に隣接する Cabirma del Cerro プロジェクトの探鉱を進めており、また、Pueblo Viejo 鉱山約 30 km に位置する Arroyo Carpintero プロジェクトの探査活動を行っている。

(2016 年 12 月 26 日 メキシコ 森元英樹)

ドミニカ共和国 : 加 GoldQuest Mining 社、新たに Hoyitos 鉱区の鉱業権を取得

加 GoldQuest Mining 社 (本社 : トロント) は、ドミニカ共和国から Hoyitos 鉱業権 (探鉱) の

承認を得たことを明らかにした。同鉱業権の対象エリアは 425ha、認可期間は 5 年間で、金、銅、亜鉛、銀の Las Animas 火山性塊状硫化物鉱床の連続性が期待される。同社は、同結果を踏まえ Las Animas 鉱床の探鉱再開を模索している。また、同社は、ドミニカ共和国において Tireo 鉱区 40 箇所のボーリング調査を計画しており、現在 13 孔のボーリング調査を終了させた。

(2017 年 1 月 8 日 メキシコ 森元英樹)

ドミニカ共和国：加 GoldQuest Mining 社、Tireo 鉱区南部において新たな鉱脈発見

2016 年 1 月 10 日付け業界紙は、加 GoldQuest Mining 社（本社：トロント）が保有する Tireo 鉱区の Romero プロジェクト南 20.5 km の地点において新たな鉱脈富鉱部（呼称：Cachimbo）が発見されたことを明らかにした。

同社は、火山性塊状硫化物鉱床をターゲットとした 10,000m ボーリングプログラムを進めており、今回、深度 70m 地点から着鉱幅 15.24m、金品位 5.27g/t、銀 30.62g/t、銅 0.42%、亜鉛 4.21%（この間で深度 73.15m 地点、着鉱幅 4.89m、金品位 13.75g/t、銀 73.73g/t、銅 1.12%、亜鉛 11.78% を含む）という有望データを得た。

同社関係者は、亜鉛価格が上昇している中、このような高品位な亜鉛鉱脈を偶然発見できたことに驚いており、同地域で更に 17 孔のボーリング作業を行う計画であると述べている。

(2017 年 1 月 12 日 メキシコ 森元英樹)

加：Gold Corp 社、Auryn 社に 35.02mC\$ の出資

2017 年 1 月 9 日、Auryn Resources Inc. 社のニュースリリースによれば、加の大手金鉱山会社である Goldcorp Inc. 社は、株式購入を通じて Auryn 社に対して 35.02mC\$ の出資を行うことを発表した。

Goldcorp 社は Auryn 社の発行するフロースルー株式 9,542,402 株を一株当たり 3.67C\$ で直接・間接的に購入し、Auryn 社の株式の 12.5% を得ることとなる。また、Auryn 社はさらに第三者割当増資により 41.16mC\$ の資金を市場より調達する。

調達資金は Auryn 社の実施するプロジェクトの探鉱費用に充てられる予定であり、特に同社が NU 準州で実施中の Committee Bay 金プロジェクトの開発費用として用いられる。Committee Bay 金プロジェクトは 2013 年に FS が実施されており、それによれば精測資源量は 4.32mt、金品位 4.91g/t、概測資源量は 5.52mt、金品位 5.43g/t と報告されている。

(2017 年 1 月 9 日 バンクーバー 杉崎真幸)

加：First Mining 社、Goldlund 金プロジェクトの鉱量計算結果を発表

2017 年 1 月 9 日、加 First Mining Finance Corp. 社は、同社が加 ON 州で実施する Goldlund 金プロジェクトに関する鉱量計算結果を発表した。

当該案件は加 ON 州南東部のグリーンストーン帯に位置する金プロジェクトであり、Tamaka Gold Corp. 社を合併したことにより 2016 年 6 月に First Mining 社に引き継がれていた。

報告によれば、精測資源量は 9.3mt、金品位 1.87/t（金量 560koz、約 16t）、概測資源量は 40.9mt、金品位 1.33/t（金量 1,750koz、約 50t）と見積もられた。

First Mining 社は 2017 年 1 月に追加の試錐を実施する計画であり、さらなる鉱量の増加を目指すとしている。

(2017 年 1 月 10 日 バンクーバー 杉崎真幸)

加：Osisko 社、Barrick edfGold 社と Kan 金プロジェクトに関する共同探鉱契約を締結

2017 年 1 月 10 日、加の金鉱山会社である Osisko 社は、同社の保有する Kan 金プロジェクトに関して、Barrick Gold 社と共同探鉱契約を締結することを発表した。

契約によれば、Barrick Gold 社は今後 4 年間で 15mC\$の探鉱資金を支出することで Kan プロジェクトの 70%の権益を得ることができる。ただし、このうち少なくとも 6mC\$は最初の 2 年間に支出する必要がある。また、Barrick Gold 社は PFS までにさらに 5mC\$を支出することで追加の 5%の権益を得ることができる。

Kan プロジェクトは ON 州北部に位置する 30 km²の鉱区であり、Osisko 社等の既往調査により 6m 間金 8.1g/t 等の複数の鉱化が捕捉されている。

(2017 年 1 月 10 日 バンクーバー 杉崎真幸)

DR コンゴ：Glencore、DR コンゴ Mutanda 銅・コバルト鉱山の権益拡大を検討

Glencore は、2017 年 1 月 5 日付けプレスリリースにて DR コンゴ Katanga 州に位置する Mutanda 銅・コバルト鉱山の権益拡大を検討していることを発表した。

同鉱山は、Glencore が 69%、Fleurette Group が 31%の権益を保有し、JV 形式での操業となっているが、メディア報道によると、Glencore は残り 31%の権益獲得を検討している。同社は、Mutanda 鉱山に対しこれまでも 18 億 US\$を投資するなど生産拡張を進めており、同鉱山による 2016 年 1～9 月期の銅生産は前年同期比 1%増の 162,300t、コバルト生産は 63%増の 18,200t となり、アナリストからは Glencore における最優良銅資産の一つとしてみられている。

Glencore は、プレスリリース内で「同社は現在 Mutanda 鉱山に関連した戦略的選択を検討しており、時期が来たら更なる発表を行う」と述べている。

(2017 年 1 月 6 日 ロンドン ザボロフスキ真幸)

豪：Atlas Iron 社、WA 州 Corunna Downs 鉄鉱石鉱床は有望との DFS 結果を発表

2016 年 12 月 21 日、豪州の鉄鉱石生産企業 Atlas Iron 社は WA 州ピルバラ地域の Corunna Downs 鉄鉱石鉱床に関する詳細な FS (DFS) 結果を発表した。

DFS により、同社鉱区における同鉱床はアップグレードなしに出荷可能な鉄鉱石 (direct shipping ore) を年間 400 万 t、5～6 年生産することが可能との結果が得られている。さらに、推定鉱山開発費用は 4,700～5,300 万 A\$であり、鉄鉱石の生産コスト (C1 cash costs) は 37～43A\$/wmt となる予定である。また、生産コストの損益分岐点は 43A\$/wmt と発表されている。

同鉱床は Port Hedland の南東 237 km に位置しており、資源量 6,410 万 t、品位 57.2%Fe、鉱石埋蔵量は 2,110 万 t、品位 57.0%Fe と発表されている。鉄鉱石は Port Hedland 港までトラックにより運ばれる予定である。同社は同鉱床の最終的な開発の判断を 2017 年 4～6 月四半期に行う予定であり、開発を進める場合は鉱山の操業開始を 2018 年 1～3 月四半期に予定している。

(2017 年 1 月 9 日 シドニー 矢島太郎)

豪：Pilbara Minerals 社、WA 州政府が Pilgangoora リチウム鉱床の採掘権を認可

2016 年 12 月 20 日、Pilbara Minerals 社は、WA 州 Pilgangoora リチウム-タンタル鉱床を胚胎する最も重要な鉱区の採掘権 (mining lease) が WA 州政府により認可されたことを発表した。

同社はさらに、豪州で最大のリチウム鉱山である Greenbushes 鉱山のリチウム酸化物浮選処理プ

ロセスを開発した Wenbo Wang 博士を 2017 年 1 月中旬から迎えることも併せて発表した。同社の Ken Brinsden CEO は「Pilbara Minerals 社に最強の鉱物処理プラント運営チームが形成される」とコメントしている。

(2017 年 1 月 9 日 シドニー 矢島太郎)

豪：プライベート・エクイティ・ファンドが中国系の MMG 社から Golden Grove 銅・亜鉛鉱山を買収

2017 年 1 月 2 日付け地元紙は、プライベート・エクイティ (PE) ファンドの EMR Capital 社が、中国系の MMG 社から Golden Grove 銅・亜鉛鉱山 (WA 州) を買収することで合意したと報じた。

買収金額は 2 億 1,000 万 US\$ (2 億 9,100 万 A\$) である。なお、EMR Capital 社の Owen Hegarty 会長がかつて保有していた Oxiana 社は、2005 年に Golden Grove 鉱山を Newmont 社から 2 億 6,500 万 A\$ で買収し、その後 2008 年に Oxiana 社と Zinifex 社との合併により設立された OZ Minerals 社に権益が引き継がれ、2011 年に MMG 社に売却された経緯がある。2016 年末の段階で MMG 社における同鉱山の帳簿価格は 1 億 8,830 万 A\$ であった。

(2017 年 1 月 11 日 シドニー 山下宜範)

豪：Vale と FMG 社の鉄鉱石ブレンド等の提携は実現しない見通し

2016 年 12 月 20 日付けの地元紙は、Vale と Fortescue Metals Group (FMG) 社との両社が協議を続けてきた中国向けの鉄鉱石のブレンド事業は実現に至らないであろうと報じた。

Vale は世界最大、FMG 社は世界第 4 位の鉄鉱石生産企業であり、2016 年 3 月に両社は同事業の提携に係る MOU を締結したことを発表していた。この提携には鉄鉱石のブレンドに加え、Vale が FMG 社のシェアの 5~15% を取得することや FMG 保有の鉱山の一部の権益を取得することも含むと見られている。

地元紙は、提携が実現しない理由として、2016 年 3 月当時と比べると鉄鉱石価格が上昇しており提携の緊急性が薄れていること、また、現在の鉄鉱石価格が上昇する局面において、ブレンド事業で生じた利益をどのように分け合うかについて合意することが難しくなっていると報じている。

(2017 年 1 月 11 日 シドニー 山下宜範)

豪：鉄鉱石、石炭等の価格上昇で貿易・サービス収支は約 3 年ぶりに黒字

2017 年 1 月 6 日、豪州統計局 (ABS) は 2016 年 11 月の貿易・サービス収支を発表。輸出額は 300.83 億 A\$、輸入額は 288.40 億 A\$ となった。輸出額は前月比 8.4% の増加、輸入額は同 0.1% 減でほぼ横ばいであった。同収支は 12.43 億 A\$ の黒字となり、前月の 11.19 億 A\$ の赤字から黒字に転じた。貿易・サービス収支が黒字になるのは 2014 年 3 月以来、約 3 年ぶりである。これは鉄鉱石や石炭などの価格の上昇が寄与している (以上、いずれも季節調整値)。

2016 年 11 月の鉄鉱石の輸出額は 50.33 億 A\$ であり前月比で 12% 増、前年同月比では 35% 増となった。石炭の輸出額は 41.28 億 A\$ であり前月比で 26% 増、前年同月比では 43% 増となった。天然ガスの輸出額は 19.03 億 A\$ であり、前月比で 10% 増、前年同月比では 29% 増であった (以上、いずれも原数値)。

(2017 年 1 月 11 日 シドニー 山下宜範)

インドネシア：Luhut 海事調整相が日本に対し製錬所建設を要請

2016年12月25日付地元メディアによると、海事調整相Luhut Panjaitan 大臣が日本に対しインドネシアに製錬所を建設するよう要請したこと明らかにした。Luhut 大臣によると、中央スラウェシ州 Morowali に検討チームが派遣される予定だという。現在 Morowali では中国企業によるニッケル銑鉄プラントの建設が進んでいる。同氏は、日本側が望む製錬所がどのようなものであれ、認可されるだろうと述べた。

Luhut 氏は2016年12月20～21日に日本を訪れ、岸田外相と会談を行い、鉱石輸出の終了に関するインドネシア政府の方針について情報を交換した。その場において、同氏は、国家的な製錬産業構築のため鉱石輸出を禁止することが、インドネシア人民の繁栄に繋がるものであると説明したという。

(2016年12月27日 ジャカルタ 山本耕次)

インドネシア：エネルギー・鉱物資源省、ニッケル・鉱石及びボーキサイト輸出禁止の方針は堅持予定

2016年12月23日付地元メディアによると、インドネシア政府はニッケル・鉱石及びボーキサイトの輸出許可を与える方針はないと、エネルギー・鉱物資源省 (MEMR) Bambang Gatot Ariyono 鉱物石炭総局長がメディアの取材に対して述べた。同氏は輸出可能な鉱種に関する情報を開示することを拒否した。

現在、インドネシア政府は金属鉱業及び石炭鉱業の実施に関する政令 (2010年政令23号) の修正作業を行っており、当該政令の修正によって特定の鉱種は輸出が可能になると期待されている。

(2016年12月27日 ジャカルタ 山本耕次)

中国：豫光金鉛、重金属汚染対策に760万元の政府補助金を獲得

安泰科によれば、河南省環境保護庁「2014年重金属汚染対策特別資金に関するガイドライン」の通達、「汚染排出費徴収使用管理条例」(国務院369号令)及び済源市政府「汚染排出費における環境保護特別資金管理事業に関する通達」に基づき、2016年12月28日、豫光金鉛は、済源市財政局から760万元の重金属汚染対策に関する特別資金が支給された。同社の亜鉛・銅スラグに対する総合利用及び製錬廃棄ガスの重金属汚染対策プロジェクトに用いられる。

(2017年1月5日 北京 森永正裕)

中国：2017年鉛亜鉛精鉱及び亜鉛製品の輸出入税率、変化せず

安泰科によれば、国務院関税税則委員会の審査を得て、国務院の許認可により、2017年1月1日より、中国政府は一部商品の輸出入関税に対する見直しを行った。ただし、鉛亜鉛関連製品の輸出入税率に対する修正はなかった。

鉛亜鉛精鉱の輸出税率に関して暫定税率は設定せず、これまでの輸出税率30%を維持する。他の関連製品の税率も2016年から変化せず。2015年に中国・韓国、中国・豪州の協定を締結した後、2016年亜鉛の関連税率は0%に引き下げられた。

(2017年1月6日 北京 森永正裕)

中国：2016年酸化亜鉛業界における生産伸び率は2～3%

安泰科はこのほど酸化亜鉛業界に対する調査研究を行った。

2016年5月以降、自動車産業の影響を受け、酸化亜鉛の生産は改善し、間接法または直接法によ

る酸化亜鉛生産量は共に増えていた。

間接法による酸化亜鉛生産の原料は主に品位の低い原料を用いている。製品は主にセラミック、プラスチック、低級ゴム等産業に使用されている。

直接法による酸化亜鉛の原料は主に亜鉛メッキスラグ、酸化鋳鋳石を用いている。製品は主に自動車のタイヤ、化粧品、Gas sensitive resistor 等高級製品分野に使用されている。

全体から見ると、2016年酸化亜鉛産業の生産伸びは2~3%になる見込み。

(2017年1月9日 北京 森永正裕)

中国：中国五鋳集団、大規模レアアース企業集団設立の審査通過

安泰科によれば、2016年12月27日、北京にて中国五鋳集団公司のレアアース集団の設立作業に対する審査会議が開かれた。審査専門家チームは五鋳レアアース集団の設立状況説明を聞き取り、関連資料を審査した後、五鋳レアアース集団をプラットフォームとして大規模レアアース企業集団の設立作業に関する審査は認可された。

(2017年1月10日 北京 森永正裕)

中国：2016年亜鉛精鋳輸入は大幅に減少

安泰科によれば、2016年中国の亜鉛精鋳輸入量は大幅に減少した。輸入TCは比較的安く、元に換算すれば輸入した鋳石の価格は国内の鋳石価格より高いため、鋳石の輸入は採算が合わない。その一方では、2016年海外の亜鉛精鋳供給も不足しており、輸出志向も弱まっていた。

税関の最新統計データによると、2016年1~11月亜鉛精鋳の輸入量は対前年同期比40.2%減の179.9万tで(実物量、以下同様)、そのうち11月の輸入量は対前年同月比21.9%減の25.5万tだが、対前月比84%増加した。国内鋳石の需給はひどく逼迫しており、中国南部の大手製錬所の原料に対する需要も強いため、鋳石は輸入せざるを得ない。12月の輸入量は増加し続けるが、2015年同期より下回る予想。

(2017年1月10日 北京 森永正裕)